

第10回文教厚生常任委員会会議録

令和7年9月18日

所管課報告事項

- (1) 障がい福祉に関するアンケート調査について（保健福祉課）
- (2) 八雲デイサービスセンターの対応について（保健福祉課）

○出席委員（6名）

副委員長	佐藤智子君	倉地清子君
	齋藤實君	関口正博君
	大久保建一君	黒島竹満君

○欠席委員（2名）

委員長	赤井睦美君	能登谷正人君
-----	-------	--------

○出席委員外議員（1名）

宮本雅晴君

○出席説明員（4名）

保健福祉課長	石黒陽子君	保健福祉課長補佐	小池克明君
保健福祉課主幹	谷口健一君	障がい者福祉係長	岸田春樹君

○出席事務局職員

事務局長	野口義人君	議事係長	千代貴大君
------	-------	------	-------

〔 開会 午前9時54分 〕

◎ 開会・委員長挨拶

○副委員長（佐藤智子君） 皆さん、おはようございます。これから文教厚生常任委員会を始めます。

今日、赤井委員長が所用でお休みですので、私佐藤が代わりに進行を務めます。よろしくお願いいたします。

【保健福祉課職員入室】

◎ 所管課報告事項

○副委員長（佐藤智子君） それでは、（１）の所管課報告事項に入らせていただきます。どちらも保険福祉課ですけれども、１つ目が障害福祉に関するアンケート調査について、２つ目が八雲デイサービスセンターの対応についてですね。

じゃあ、①の方から説明をお願いいたします。

○障がい者福祉係長（岸田春樹君） 委員長、障がい者福祉係長。

○副委員長（佐藤智子君） 障がい者福祉係長。

○障がい者福祉係長（岸田春樹君） それでは、今年度実施予定の障がい福祉に関するアンケート調査について、資料に基づいてご報告いたします。別紙１をご覧ください。

１．目的につきまして、まず、現行の第４次八雲町障害者計画、第７期八雲町障害福祉計画、第３期八雲町障害児福祉計画は、令和８年度までの計画となっております。

北海道では、これまで、道の障がい福祉施策の基本的な方向性を示す、北海道障がい者基本計画と、それに基づく地域の必要な障がい福祉サービスの実施方針を示す、北海道障がい福祉計画を策定していましたが、この２つの計画について、施策を一体的に推進し、実効性のある障がい福祉サービスを提供することを目的として統合し、新たに令和６年度から令和１１年度までの第１期北海道障がい福祉プランとして策定しました。

八雲町としましても、同様に考え、令和９年度から令和１４年度までの１期八雲町障がい福祉プランの策定を考えているところです。

今回のアンケート調査では、その計画の策定にあたり、ニーズ把握と必要な支援策の検討に活用するため実施する予定としております。

２．調査対象者につきましては、各手帳を保持する者で、参考として６月３０日時点の数値を出しております。

３．調査方法ですが、調査票を郵送し、配布します。回答は、前回同様調査票への記載の他、インターネットからの回答も行います。回収は、郵送で行います。

４．アンケート実施スケジュールにつきましては、７月２８日に行われた自立支援協議会内でアンケート内容を協議いたしましたので、本日の報告後、１０月頃から１か月程度アンケート調査を実施予定です。

５．調査項目ですが、調査設問数を全３０項目、１１ページでアンケート案を作成しました。

設問数につきましては、設問数が多いと回収率が下がる傾向にあり、３０項目と前回よりも少し増えてしまいましたが、なるべく最小限にあまり多くならないように考慮したとこ

ろであります。3 ページから 13 ページまでが調査票となっておりますが、項目ごとの説明は割愛させていただきます。

以上、障がい福祉に関するアンケート調査についてのご報告とさせていただきます。よろしく願いいたします。

○副委員長（佐藤智子君） 質問ある方いらっしゃいませんか。

（「なし」という声あり）

○副委員長（佐藤智子君） じゃあ質問がないようですので、アンケート調査について、滞りなく進めてくださいますよう、お願いいたします。

○障がい福祉係長（岸田春樹君） ありがとうございます。

○副委員長（佐藤智子君） ②八雲デイサービスセンターの対応についての説明をお願いいたします。

○保健福祉課長補佐（小池克明君） 委員長、保健福祉課長補佐。

○副委員長（佐藤智子君） 保健福祉課長補佐。

○保健福祉課長補佐（小池克明君） 私のほうから、八雲デイサービスセンターの対応について、説明させていただきます。一番最後の資料になります。14 ページをお開きください。

社会福祉協議会により運営されている八雲デイサービスセンターについては、7 月 17 日開催の文教厚生常任委員会でも報告させて頂きましたが、八雲デイサービスセンターについては、社会福祉協議会が、令和 8 年 3 月 31 日をもって指定管理期間が終了し、事業所の閉鎖を予定することとしていることから、現在の進捗状況を報告するものであります。

2. 今後の対応について、（1）令和 8 年度に向けた対応についてということで、八雲デイサービスセンターの備品等整理及び新たな民間事業者と雇用の希望がある職員の今後の処遇について、今後、調整を進めているところです。

備品については、町で購入したデイサービスの備品と社会福祉協議会が所有する備品がありますが、町が購入した備品が故障しているものも含まれており、今後、デイサービスの運営に係る備品等について、不足する備品等について町が購入するもの、事業者が購入するものについて引き続き整理を行っていかうと思っております。

また、現在のデイサービスセンター職員 7 名のうち、雇用希望者は 4 名で、今月中に新たな民間事業者と今後の処遇について、面談を行うこととしております。なお、雇用を希望しない 3 名は、面談を希望しない方 1 名、働く希望の無い方 1 名、社会福祉協議会の介護サービス事業所との兼務の方 1 名です。

今後につきましても、雇用希望者と新たな民間事業者との調整を行ってまいります。

以上簡単ですが、報告とさせていただきます。

○副委員長（佐藤智子君） 報告が終わりました。質疑ございますか。

○委員（倉地清子君） はい。

○副委員長（佐藤智子君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） 新たな民間事業者さんというのは、もう決まったんでしたっけ。まず、その話を聞き忘れたんで。

○保健福祉課長（石黒陽子君） 委員長、保健福祉課長。

○副委員長（佐藤智子君） 課長。

○保健福祉課長（石黒陽子君） 現在調整中でありまして、まだ決定はしてございません。

○委員（倉地清子君） はい。

○副委員長（佐藤智子君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） ちょっと前の話に戻っちゃうんですけど、給食っていうか、ご飯を食べる、お弁当は続ける話だったと思うんですけど、その新たな民間事業者さんと社会福祉協議会でご飯が残るっていうのは可能なのかなって、あとで時間が経ってから思ったんですけど、その件についても、これから協議していく中身になっていくのかな。だから、うまくできるのかどうか難しいんじゃないかなと思ったので。

○保健福祉課長（石黒陽子君） 委員長、保健福祉課長。

○副委員長（佐藤智子君） 課長。

○保健福祉課長（石黒陽子君） ご自宅の方に宅配を行う給食サービスと、デイサービスのことかなと思います。全く事業的には別なものになっておりまして、しかしフロアが同じ場所で行っているので、フロアの整理は、今現在行っているところでございます。

しかし、現在給食サービスを利用されている方が利用できなくなるという環境ではございませんので、よろしくお願いします。

○副委員長（佐藤智子君） 利用は継続されるということで、よろしいですか。

○委員（倉地清子君） はい。

○副委員長（佐藤智子君） あと、質疑・ご意見ございますか。

私から聞きますけど、お風呂とかもデイサービスで提供してたと思うんですが、それは今後は使わなくなるということでもいいんですか。

○委員（大久保健一君） 使わなくなる。

○副委員長（佐藤智子君） 使わなくなるというか、デイサービス用にお風呂があったんですよね。

○保健福祉課長補佐（小池克明君） 委員長、保健福祉課長補佐。

○副委員長（佐藤智子君） 課長補佐。

○保健福祉課長補佐（小池克明君） デイサービスのサービス内容の中に、基本的に入浴も含まれているサービスになりまして、入浴が、事業者が変わる変わらないに関わらず、そこは継続するというふうになります。

○副委員長（佐藤智子君） その新しい事業者が決まったら、今のままの場所でやるのか、それとも別な場所でやるのか、その辺教えてください。

○保健福祉課長補佐（小池克明君） 委員長、保健福祉課長補佐。

○副委員長（佐藤智子君） 課長補佐。

○保健福祉課長補佐（小池克明君） サービスができる環境というのは、今の利用しているデイサービスのエリアを利用する形になりますので、そこが変わるというふうには考えていません。

ただ、先ほど質問のあった厨房の給食サービスのエリアの部分に関しては、新しい事業者は、使用するかどうかということの調整をこれからちょっとお話しする予定ですので、そこが変わる可能性がありますけれども、お風呂場だとか、そういった部分に関しては、特別変更となるような予定はございません。

○副委員長（佐藤智子君） そうしたら、場所は変わらないと。だから利用する人にとっては、サービスしてくれる人が変わるだけっていう感覚になるということですよっていうか、新しい事業所が今のシルバープラザの中で、今度サービスを提供するということなんですね。

○保健福祉課長補佐（小池克明君） はい。

○副委員長（佐藤智子君） そうですね。ありがとうございます。あと質問は。

○委員（大久保建一君） はい。

○副委員長（佐藤智子君） 大久保委員。

○委員（大久保建一君） 前、このデイサービスの提供というのを社会福祉協議会でやって、ある程度支援したけれども、結局経営が立ち行かなくて撤退するってことだよな。じゃあ、次の委託先にも同じ条件であれば、結局成り立たなくはなりますよね、きっと。

だから、受託の条件って以前とは変わってくるのかなって思うんだけど、そこらへんはどういう募集要項っていうかな、どんな感じになるんですか、現実。

○保健福祉課長（石黒陽子君） 委員長、保健福祉課長。

○副委員長（佐藤智子君） 課長。

○保健福祉課長（石黒陽子君） 今現在、考えている状況といたしましては、現在の指定管理と同様に光熱費のみの町負担ということで、ほかの委託料等の発生は考えてございせんので、よろしくお願いします。

○委員（大久保建一君） はい。

○副委員長（佐藤智子君） 大久保委員。

○委員（大久保建一君） 私もあまり詳しくないのであれなんだけど、他町の状況と違って、こういうのってどうなんだろう。光熱費以外にも支援しているのが一般的なのか。それとも、みんなそんな感じでやってもらっているのかというのは、どうなんです。

○保健福祉課長（石黒陽子君） 委員長、保健福祉課長。

○副委員長（佐藤智子君） 課長。

○保健福祉課長（石黒陽子君） 中にはやはり、あるかとは思いますが。各自治体の方で負担しているところもあるかとは思いますが、民間企業のみで経営しているところもありますし、同じような指定管理を受けて行っている民間業者というのもあると思います。

直接1件ずつ、各町に確認を取ったわけではございませんが、インターネット上の確認だとか、その他の確認をとったところ、まちまちという状況ではあります。

○委員（大久保建一君） はい。

○副委員長（佐藤智子君） 大久保委員。

○委員（大久保建一君） 通常、経営者側の考え方からいけば、社会福祉協議会みたいなどでやってくれて成り立たないんだから、ある程度支援をいただかないとやれないんじゃないかって思ってしまうんだよね。

だから、そこらへん、これからは全く光熱費だけの負担で一切譲歩しないっていう考え方でいくのか、町では、こうやってデイサービスセンターというものを守っていくために、ある程度支出はやむなしと考えていくのか、その辺の考え方っていうのは、ある程度定まっているんですか。

○保健福祉課長（石黒陽子君） 委員長、保健福祉課長。

○副委員長（佐藤智子君） 課長。

○保健福祉課長（石黒陽子君） 現在のところは、今の現状と変わりなく行う予定と考えております。継続していくつもりで考えておりますので、よろしくお願いします。

○副委員長（佐藤智子君） いいですか。

○委員（大久保健一君） はい。

○副委員長（佐藤智子君） 意見とか、あったら。

○委員（斎藤 實君） はい。

○副委員長（佐藤智子君） 斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） 意見としてはね、今、大久保さん指摘したように、果たして経営が成り立つのかどうなのかというところの心配というのは、僕はどうしても出てくるのかなという感じがするんですけどもね。

介護保険の方で、いろいろとお金のあれは出てくるんだろうけれども、その内容自体が1人あたり入浴のデイサービスに来てもらったら、どのぐらいになっているのか、その辺の損益分岐点っていうのかな。一日あたり何人来たら、この事業は成り立つのかと。そういうようなことは検討したことありますか。

○包括支援主幹（谷口健一君） 委員長、包括支援主幹。

○副委員長（佐藤智子君） 主幹。

○包括支援主幹（谷口健一君） 一日あたり15人来れば、経営的にはなんとかなる状況であるというふうに言われております。現状今、社会福祉協議会の場合だと15人に満たない、10人ちょっとという状況から続いているのが現状です。

それから、先ほどの経営の部分で言いますと、新たな民間事業者が、今の介護保険の成り立ちというか、介護報酬上の仕組みで言いますと、まず国は基本単価を抑えて、そのほか人員の加算を取ることで収益を上げるというような介護保険の仕組みに今変わってきてまして、特に通常のサービスだと時間ごとに基本単価が決まっているんですよね。

3時間未満のサービス4時間未満のサービス、5時間未満のサービスということで、その時間ごとにまず基本単価が決まっていて、それプラス、入浴したら何点、リハビリしたら何点、職員体制が充実していたら何点。それから、今ICTを使って利用者の身体状況を国に報告するようなシステムがあるんですけど、そういうことに取り組んだら何点、というようなかたちで色々とにかく加算をとって支援を受けるといったような仕組みになっていまして、現状の今の社会福祉協議会でいきますと、人員等の基準だとか、ある法人がそれほど大きくないということもあって、なかなか取れる加算が少なかったっていう現状はあります。

それが、新たな事業者さんになることによって、利用者さんの負担はそれに伴って少し増えますが、事業者の加算をとることによって、事業者の収益も上がっていくところがありますので、利用者が15人に満たなかったとしても、そのへんの加算をとることによって、現状よりは収益は上がっていくという仕組みになっていますので、あとはその民間さんの経営の所になるかなと思いますが、介護保険の仕組み上、今まで取れなかった加算をとることによって、収益というのは少し上がっていくところはあるかなと思います。

○副委員長（佐藤智子君） いいですか。

○委員（斎藤 實君） やってみたいとちょっとわかんないね。受ける事業者さんも大変かなと思う。

○副委員長（佐藤智子君） 今のお話を聞いて少し介護保険の仕組みというか、収益の出方が分かった気がしますけれども、ほかに聞きたいことはございますか。ありませんか。では、状況を見守るということで。

いつごろまでに、その新しい事業者っていうのは決まるんですかね。プロポーザルでやるっていうことですけど。

○保健福祉課長補佐（小池克明君） 委員長、課長補佐。

○副委員長（佐藤智子君） 課長補佐。

○保健福祉課長補佐（小池克明君） 指定管理者の公募に関しての手續きのことかと思われるんですが、今のところ進めているのは、公募によらないかたちで今、新しい事業者と調整がうまく整えば、ちょっとタイミングというのは、まだはっきり決まっていけないので、決まってからじゃないと申し上げられないんですが、その事業者と公募によらないかたちの指定管理者としての協定を、まず想定をしながら進めたいというふうに思っています。

○委員（大久保建一君） 公募でもプロポーザルでもねえっていうことね。

○副委員長（佐藤智子君） そうするともうある程度決めていて、というか、随意契約みたいな形になるということなんですね。違う。

○委員（大久保建一君） というか、引き受けてくれるところを探してんだろ。

○副委員長（佐藤智子君） 引き受けてくれるところを探してるから。

○委員（大久保建一君） 元々そんなにも儲かる商売じゃないから引き受けてもらうしょ。

○委員（倉地清子君） はい。

○副委員長（佐藤智子君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） いろいろ説明を聞かせてもらって、新たな事業者さんが経営努力していくっていうか、点数加算をしていったり、あとは15人と毎日来てくだされば、うまくいくっていう話だったので、何よりも心配なのが楽しみにデイサービスを受けている方の話を聞かせてもらってるので、サービスの質が同じかちょっと良くなる感じなら、それはいいことだなと思っているので、そのやり取りはこれからよろしくお願ひしたいと思います。

加算が上がるってことは、やっぱり負担も上がると思うんですけど、その辺も、あまり負担のかからないような感じになればいいなと思っているので、どうぞよろしくお願ひします。質問はないので、以上です。

○副委員長（佐藤智子君） コメントいいですか。

○委員（倉地清子君） あ、いただけますか。

○副委員長（佐藤智子君） コメントをお願いします。

○保健福祉課長（石黒陽子君） 委員長、課長。

○委員長（赤井睦美君） 課長。

○保健福祉課長（石黒陽子君） 間違いなく、町内のデイサービスを利用されている方たちは、楽しみにされている方、町民の方もたくさんいると思います。私どもといたしましても、やはりデイサービス自体は必要な事業かとは思っておりますので、今後も継続できるよう、事業所の方とも協議をしつつ、進めていきたいと思っております。

しかし、加算を取らないようにというお願いはできかねますので、何分そこはよろしくお願ひします。

○副委員長（佐藤智子君） あとは、いいですか。

○委員（斎藤 實君） もう1つ確認するけど。

○副委員長（佐藤智子君） 斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） 加算取った場合、利用者の負担も増えるんですか。

○包括支援主幹（谷口健一君） 委員長、主幹。

○副委員長（佐藤智子君） 主幹。

○包括支援主幹（谷口健一君） 基本的には、加算を取ることによって利用者の負担は増えます。

ただ、ちょっと難しい話なんですけど、ひと月に利用できる単位数って決まってるんですけど、それには含まれない加算とかもあって、単純に加算を取ることによって、利用者さんの負担という単純に増えていくんですけど、ひと月に利用できるサービスの量には影響しない加算とかもあるので、とる加算によって変わるところがあるんですけど、利用者さんの負担が増えるんですかっていうことで言いますと、加算取ることによって増えてはきます。

○副委員長（佐藤智子君） 今さらなんですけど、今現在週に一日とか2日の人が多いと思うんですけども、ひと月の利用料っていくらだったんですか。安いと思ってましたけども、いくらでしたか、だいたい。

○包括支援主幹（谷口健一君） 委員長、主幹。

○副委員長（佐藤智子君） 主幹。

○包括支援主幹（谷口健一君） 要介護度によって、ちょっと違うので。

○副委員長（佐藤智子君） 要支援1、2の人ですよ。

○包括支援主幹（谷口健一君） そうですね。要支援1、2の人で言いますと、要支援1の方で言いますと、ひと月お食事代を含めないでいいですと、2,639円。要支援2の方で4,604円になります。これがひと月あたりになります、月額制になるので。ちなみに、要介護1の方になりますと、一回あたりお食事代を入れないと770円。要介護2の方で901円。これは、一回あたりの単価になります。これが要介護5の方まで、介護度に応じて決まっている形になります。

○副委員長（佐藤智子君） ありがとうございます。要介護重い人も見てましたか。

○包括支援主幹（谷口健一君） 見えています。ただ、利用する方がどうしても要介護4とか5の方がいらっしゃるかという、現状今要介護4とか5の方は、いなかったと思います。

○副委員長（佐藤智子君） ありがとうございます。なんか勝手に軽い人だけ利用してるって思い込んでましたけども、勘違いでした。失礼しました。

あと、聞きたいことある方いませんか。

（「なし」という声あり）

○副委員長（佐藤智子君） ないということで、皆さんどうもありがとうございました。

【保健福祉課職員退室】

○副委員長（佐藤智子君） それじゃあ、（２）報告事項についての協議をしたいと思います。何か取り立てて、今の報告について話し合うことありますか。

○委員（関口正博君） いいですか。

○副委員長（佐藤智子君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 介護とかこういう福祉の部分ってなかなか難しくてね、今のやり取り聞いてもそうなんだけど、やっぱり我々もちゃんと一つ一つのことを理解するっていうのは、必要かなって思うんですよね。

社協のあり方も含めて、今のお話聞いてると、事務の専門性がどうしても高くなってしまって、社協のような組織では、なかなか対応しきれない部分というのは、もう出てきているってことなんでね。

だからこそ、民間の活力を借りながら、ただ町がそこに対してどういう支援をすべきか、というのはどういう支援ができるかっていうのは、やっぱり考えていかなきゃならないですよ。

これで、お金を持ってるお年寄りはいいいんだけど、どうしてもそうじゃない人たちっていうのも出てくるわけで、ただ、そこら辺の平等性っていうものは、当然考えていかなきゃならないことでもあるし、そうやって考えたときには、制度そのものはやっぱり議会もちゃんと、病院事業とも同じなんだけど、しっかり勉強しなきゃならないんだっていうのは、つくづく今のやり取り聞いてて思ったところなんだよね。

○副委員長（佐藤智子君） すいません。

○委員（関口正博君） いや、俺自身もそうなんだ。何も質問できなかった。

○委員（斎藤 實君） 私も途中半端です。

○委員（関口正博君） それだけまた複雑になってきている。だから、社協では対応できないんだよっていうことなのかなっていうふうには思うんですよね。議会がやるべきことなのかどうか、それはわからないけど、やっぱり理解が必要だなって思っ。

○委員（斎藤 實君） 必要です。

○委員（関口正博君） まあ、新しい体制のもとでどうなるかわからないけど、やっぱりそこら辺も含めて、議会としては。

○委員（大久保健一君） だけど、サービスを増やして加算を受けるってことは、利用者の負担も増えるから、増えていくということは、コミュニティとの存在のすみ分け。今までは町運営だから安かったんだけど、コミュニティは、民間だから高いというのがあったけどさ。

だけど、加算を取るために経営成り立つように高くしていったら、今度コミュニティとすみ分けが難しくなっていくような気がする。

○委員（関口正博君） だけど、安いがゆえに経営は成り立っていないっていうことでしょう。要はね。それで、専門性っていうのがどんどん高くなっているから、余計にっていうことなんでしょ。

○副委員長（佐藤智子君） コミュニティの方はさ、リハビリが中心になるから、デイサービスのほうはリハビリがないから、ゲームとか歌とかはあるけれども、実際作業療法士みたいなことはないわけだから、そういう意味のごちゃごちゃになるっていうのはないと思うんだけど。

○委員（大久保建一君） だけど、どちらかというと安価で安くて利用しやすいのが町運営のデイサービスってことだったんでしょ。

○委員（関口正博君） それが今までの考え方であったってことでしょ。でも、それがもう成り立たなくなってきた。

○副委員長（佐藤智子君） お金がないからだと思う。事務っていうことは、ちょっとわかんないけども。

○委員（倉地清子君） ちょっと専門性が社会福祉協議会自体もちょっと、かなって。

○委員（関口正博君） だから、医療事務とかと同じで、加算を取るってというのは、やっぱり事務自体に専門性が高くなってきたからこそ、社協のような組織では対応できませんってことなのかな。

○副委員長（佐藤智子君） やっぱり病院もね、いろんな加算を取っているっていうので、患者負担も増えたけども、介護の世界もね、細かく3年ごとに見直しでまた変わってきたりするわけだから。ゆるくないっていうのは確かですよ。

○委員（関口正博君） 当然、高くなるということは困る高齢の方が増えてくる可能性があるってことでもあるから、じゃあ、それにどこまで町がしてあげるべきなのかどうなのか俺もちょっとわかんないんだけども。

○副委員長（佐藤智子君） 熊石のデイサービスセンターは、なんか充実しているような気がするんだけども。熊石市の方っていうのは、町として補助を出してるっていうわけではないですかね。その辺もよく分からない。斎藤さん、なんか分かることありますか。

○委員（斎藤 實君） 町でもって、お金出してやってもらってるっていうことかな。

○委員（大久保建一君） 何かしら支援がないと成り立たないと思う。

○委員（斎藤 實君） ですね。

○委員（大久保建一君） だって対象人口も違うだろうし。

○副委員長（佐藤智子君） そうね。今何名いるとかっていうのは、わからないですか。

○委員（斎藤 實君） そこまでは聞いてません。行ってる人は、楽しんでることは楽しんでます。だから、そこさ行くまでの間、行ってもいいよなと思う人がね、なかなかね。なんていうのかな、違うんだよね。

○委員（関口正博君） だから、サービス自体が熊石と八雲で違うというのはね、わかるし。患者移送サービスの金額も人口比率でったら、すごい高いっていうのもあるから。熊石の方がきめ細やかなサービスができているのは間違いないんだろうけど。

ただ、やっぱり人口規模が違うもんで。向こうにはそういう民間の、そういう福祉法人みたいなものもやっぱりないから、そうせざるを得ないということなんですよ。だから、一概に熊石と八雲をそこで比較するわけにはいかないっていう。

○委員（大久保建一君） 単純はいかない。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） 熊石のデイサービスセンター、前に保健福祉課から提供された資料だと、令和6年度で一日あたりは大体9.5人で10人くらいですね。1か月だと登録数という言い方をするようですが、41.8。42程度の利用登録があると。

年度当たりの延べ利用者数ということであれば、2,391名。令和6年度の実績値ですね。ここは指定管理で運営してます。

○副委員長（佐藤智子君） 八雲から通ってた人も、仕事で通ってた人もいたもんね。退職しちゃったけども。

○委員（関口正博君） あと、人材の問題ね。今4人は継続してこようとしてたけど、2人はまだ分からない。ここで人材の部分というの、これからどうしていくのか。町としてね。

○副委員長（佐藤智子君） 共通しているのは、どっちも行った人は、参加している人は楽しいっていうのはね、いいことだなんていうふうに思うし、介護度が進むのを確実に抑えているだろうから、大事なことだと思うけども、新しくなって15人っていう人数がね、増えればいいけれども。

○委員（関口正博君） これから当然高齢者の人口も減ってくるし、ただ、そういう介護度で言えば、やっぱり介護度が高い人が増えてくるのかどうか、それ傾向はわからないけど、どういう対応すべきだっていうのはちょっと。

ごめん、話が別に逸れるけども、福祉が得意な方がちょっといなくなっちゃうんで、議会としてね。

○副委員長（佐藤智子君） ああ、そうですね。

○委員（関口正博君） みんなそれぞれ議員でさ、得意不得意な分野ってやっぱりあって、福祉っていうのはすごく特殊で、いろんなところにまたがるものだから、なかなか興味がなかったら、踏み込んで勉強していけないと。

○副委員長（佐藤智子君） すごく国が絡みだし、道絡みだし。

○委員（関口正博君） 国の制度に翻弄されるところもあるからね。

○副委員長（佐藤智子君） そうそう、そうそう。

○委員（関口正博君） ただ、八雲町の福祉政策っていうものは、やっぱり大事だからそこはちゃんと勉強する場っていうか、これも病院と同じでやっぱり必要だっていうのは。

○副委員長（佐藤智子君） それこそ勉強会が必要だろうし、専門家の、役場から来てもらって話聞くのもありだし、デイサービスセンターもいつでも見学可能ですよって言うんだけど、ちょっと一度も行ったことが私はないんですよ。

だから、文教厚生常任委員会として、赤井委員長が戻ってきたときに新しい事業者に移行してからでもいいし、その前でもいいから、一度見学もしに行けたらいいかな。

○委員（大久保健一君） その前に改選だって。

○副委員長（佐藤智子君） 改選ね。それはそうだ。

○委員（関口正博君） だから、希望としては、福祉が得意な人が1人でも2人でも議会にいてくれればいいなって。

○副委員長（佐藤智子君） ですね。勉強は必要です。

○委員（斎藤 實君） ただね。今、説明の部分で結局介護度の、いろんなものを取るにしても、やっぱり専門的な人材配置しなきゃいけないとなれば、これもまた大変なのさね。そういう人材見つけなきゃね。

○委員（関口正博君） そういう人材を作っていくのは、また町としての役割なのかどうかっていうのもやっぱりあってね。

介護福祉士だとか、きっと資格っていろいろにわたるんだろうけど、そういうところに対して、ちゃんと支援するべきなのか。要はシステムがわからないと、やっぱりわからない。

○副委員長（佐藤智子君）　そうですね。海外からね、誰か来るようになるのかもしれないし、介護人材が。それはちょっとわからないですけど。

○委員（関口正博君）　だから、改選後の議会としての委員会としての課題というか、それで捉えていてもらえれば。

○副委員長（佐藤智子君）　調査項目に、もうちょっと介護とか福祉とかも力点を置いて。そんなところですかね。あと、ありますか。

（「なし」という声あり）

○副委員長（佐藤智子君）　（４）その他ございますか。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君）　事務局から。

○副委員長（佐藤智子君）　はい、事務局。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君）　次回のご案内。次回の予定自体はまだ立ち上がっていないんですけど、あれば10月9日木曜日に総務と多分一緒になるかと思います。

○委員（関口正博君）　総務は9日にあるの、确实。

○議会事務局次長（藤原悟史君）　まだ、案件はないです。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君）　9日と予定は今お伝えしましたが、あるかどうかしらまだ全然決まってないです。

○副委員長（佐藤智子君）　重要案件があれば、あるかもしれないです。その他、みなさんからございませんか。

（「なし」という声あり）

○副委員長（佐藤智子君）　ないですね。

それでは、本日の文教厚生常任委員会はこれで終わりといたします。お疲れ様でした。

〔 閉会　午前10時33分 〕